1980 年代前半のカタルーニャ自治州における
言語センサスデータの社会言語学的意味

塚原信行

1 はじめに

1978 年に現在のスペイン憲法が公布され、これに基づき 1979 年に自治州が構成されて以来、カタルーニャ自治州では「ダイグロシアをともなうバイリンガリズム」を、「ダイグロシアをともなわないバイリンガリズム」へと組み替えるための言語政策が実施されてきた（塚原 2004）。

政策である以上、その評価にはなんらかの指標が必要となるが、カタルーニャ自治州における言語政策については、言語能力に関する全数調査（言語センサス）と、言語使用に関する抽出調査が基礎的なデータとして用いられてきた。言語能力に関するデータの収集は 1981 年から始まり、国勢調査や住民登録更新の機会などを利用し、5 年ごとにデータが蓄積されてきている。言語使用に関するデータについては、「住民の言語使用調査（Enquesta d'usos lingüístics de la població）」が 2003 年に始まり、5 年ごとの実施によりデータが収集されてきた。

言語政策の評価指標として用いられてきていることからも明白であるように、これらデータは、収集時点におけるカタルーニャ自治州の社会言語学的概況を示すものである。

2 問題の所在

最も古い言語能力データは、カタルーニャ語理解に関する 1981 年のものである [1)]。これは、1981 年の住民登録更新にあたり設けられた「（カタルーニャ語を）理解しますか／しませんか（L'entén? / No l'entén?）」という質問に基づいて得られたもので、2 歳以上人口（5,782,455 人）の 80.5%（4,653,346 人）がカタルーニャ語を理解すると回答している（表 1）。

1986 年の住民登録更新時にはカタルーニャ語に関する 4 技能（「理解する（L'entén）」「話せる（El sap parlar）」「読める（El sap llegir）」「書ける（El sap escriure）」）に関する質問が設けられた。このデータによれば、2 歳以上人口（5,856,435 人）の 90.3%（5,287,200 人）が「理解する」と回答している（表 1）。

1981 年と 1986 年のデータを比較すると、「理解する」人口は実数で 633,854 人、割合では 9.8 ポイントの増加となっている。これは、その後のデータと比較しても、実数・割合のどちらの面においても非常に大きな伸長である（図 1）。しかし、このように大きな伸張が見られた理由については、後述する利用可能データの不完全性もあってか、これまでに検討された様子がない。本稿では、実数にして 633,854 人となる、この伸張の理由について検討する。

	2 歳以上人口	「理解する」人口	2 歳以上人口に占める割合
1981 年	5,782,455	4,653,346	80.5%
1986 年	5,856,435	5,287,200	90.3%
1991 年	5,949,177	5,577,855	93.8%
1996 年	5,984,334	5,683,237	95.0%
2001 年	6,176,751	5,837,874	94.5%

表 1：2 歳以上人口におけるカタルーニャ語理解能力の伸長

［出所：カタルーニャ統計院提供データに基づき独自作成 [2)]］

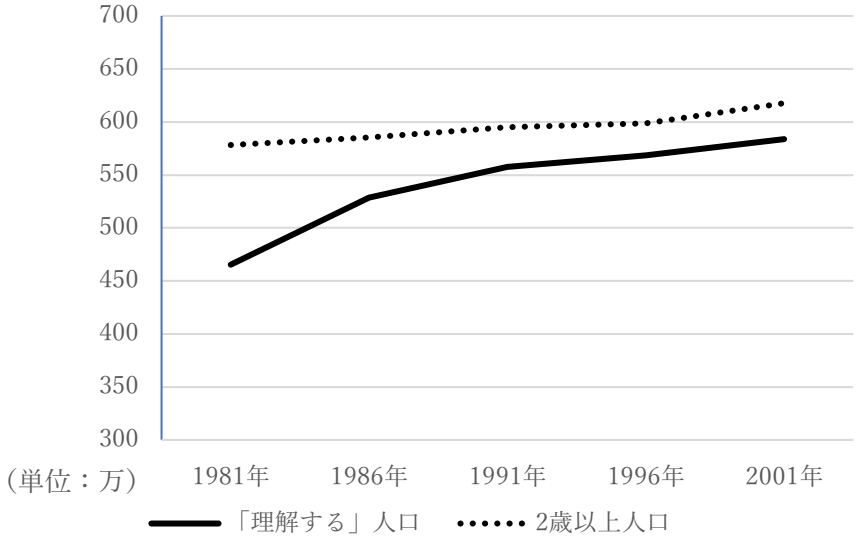

図 1：2 歳以上人口におけるカタルーニャ語理解能力の伸長

［出所：カタルーニャ統計院提供データに基づき独自作成］

3 問題へのアプローチとデータの制約

カタルーニャ語理解人口の増加数 633,854 人について検討するためには、回答内容と回答者の属性（年齢・職業・性別・母語・出生地・カタルーニャでの生活年数・学歴など）とをかけあわせた、いわゆるクロス集計を行うことが理想的である。実際に、1986 年以降のデータについてはこうした処理が行われ、これまでに書籍も発行されている（Reixach i Pla et al. 1997 など）。しかし、住民登録更新に当たって収集された 1981 年のデータには、回答者の属性が多く含まれているわけではなく、個人を主キーとする対応があるデータを利用できないため、クロス集計により増加数 633,854 人の内容を詳細に分析することはできない。また、すでに述べたように、1981 年のデータと 1986 年のデータでは収集時の質問形式は異なり、これによって回答が異なった可能性

は否定できない。

しかし、完全ではなくとも、増加数の内容を検討し傾向をつかむことは、1980 年代前半のカタルーニャ自治州における社会言語学的状況の把握には有効であろう。幸いにも、利用可能データは回答者の年齢を含んでいる（表 2)。以下、４節では、年齢属性と、カタルーニャ語学習に関するデータ等を用いつつ、633,854 人という増加数の内訳を可能な限り推定するが、いくら多めに見積もっても、増加数を十分に説明できないことが明らかになる。そのため、５節では新しい可能性について考察し、最終６節では、増加数に関する社会言語学的な含意を述べる。

年齢帯	1981 年	1986 年	差
2 歳～4 歳	162,301	124,799	-37,502
5 歳～9 歳	382,086	404,015	21,929
10 歳～14 歳	413,835	492,901	79,066
15 歳～19 歳	409,651	467,708	58,057
20 歳～24 歳	380,089	446,241	66,152
25 歳～29 歳	348,828	418,301	69,473
30 歳～34 歳	344,180	384,326	40,146
35 歳～39 歳	306,952	376,811	69,859
40 歳～44 歳	270,451	337,605	67,154
45 歳～49 歳	310,261	292,009	-18,252
50 歳～54 歳	301,463	330,260	28,797
55 歳～59 歳	274,692	311,633	36,941
60 歳～64 歳	208,983	277,471	68,488
65 歳～69 歳	182,885	204,348	21,463
70 歳～74 歳	152,255	168,459	16,204
75 歳～79 歳	106,748	127,920	21,172
80 歳～84 歳	59,923	76,373	16,450
85 歳～89 歳	31,504	43,912	12,408
不明	6,259	2,108	-4,151
合計	4,653,346	5,287,200	633,854

表 2：2 歳以上人口におけるカタルーニャ語を理解する人口（年齢帯別）
1981 年と 1986 年の比較
［出所：カタルーニャ統計院提供データに基づき独自作成］

4 理解人口増加実数の内訳に関する推定

1981 年には「カタルーニャ語を理解する」と回答しておらず、1986 年に「カタルーニャ語を理解する」と回答した者としては、１）この間にあらたに生まれてカタルーニャ語話者となった者、２）この間にカタルーニャ語学習を経験した者、３）この間にカタルーニャ自治州へ転居し

てきた、カタルーニャ語を理解する者、の３パターンが考えられる。２）については「学校教育制度内で学んだ者」「学校教育制度外で学んだ者」にわけることができる。さらに「学校教育制度外で学んだ者」についても、「語学学校などの成人を対象とするコースで学んだ者」と「市販の教材などを用いて自学自習した者」にわけることができる。以上をまとめると、次の５パターンになる。

①あらたに生まれてカタルーニャ語話者となった者

②学校教育制度内でカタルーニャ語を学んだ者

③成人対象コースでカタルーニャ語を学んだ者

④自学自習でカタルーニャ語を学んだ者

⑤カタルーニャ自治州への転入してきた、カタルーニャ語を理解する者

これらの５パターンは相互に排他的ではなく、「語学学校などの成人を対象とするコースで学び」かつ「市販の教材などを用いて自学自習した者」、あるいは５年の間に「学校教育制度」を終え、社会人となった後に「成人対象コース」で学んだ者といったように、重複の可能性もある。しかし、一般的にはこれら５パターンで主要な範囲を確認できると考えられるため、以下ではこれらについて、利用可能なデータから推定を行う。また、データの制約による不確定部分については、それぞれのパターンについて推定する際に述べる。

4.1 ①あらたに生まれてカタルーニャ語話者となった者

これは表２の２歳～４歳に該当する。ただし、このうちの３歳～4 歳部分については、就学前教育（Educació pre-escolar）でカタルーニャ語を学んだ者と重複する可能性があるが、その数は不確定である。

4.2 ②学校教育制度内でカタルーニャ語を学んだ者

カタルーニャ自治州の学校教育制度内で正式にカタルーニャ語教育が開始されたのは、1980 年から 1981 年にかけてである。これは、初等、中等および職業教育において、カタルーニャ語を科目として導入することを義務化する政令に基づくものであった（ORDRE de 10 de setembre de 1980, que desenvolupa el Decret 142/1980, de la Generalitat de Catalunya de 8 d'agost, pel qual es regula l'ensenyament de la llengua catalana al sistema educatiu de Catalunya）。1983 年には言語正常化法（Llei 7/1983, de 18 d'abril, de normalització lingüística de Catalunya）が制定され、カタルーニャ語とカスティーリャ語は、大学以外のあらゆる水準の教育で教えられなければならないと定められた（第 14 条 3）。

以上のことから、1986 年当時には、大学教育よりも前の段階ではなにかしらのカタルーニャ

語教育が実施されていたと考えられる。したがって、表 2 における 5 歳から 19 歳の増加分 159,052 人を、そのまま「学校教育制度内でカタルーニャ語を学んだことにより、『カタルーニャ語を理解する』と回答するようになった者」とみなすこととする。

ただし、カタルーニャ自治政府からの助成金を全く受け取らずに運営されている私立学校ではカタルーニャ語教育が実施されているとは限らず、また、そもそも学校に通っていない者は学校教育制度内でカタルーニャ語を学んだ者には該当しないが、その数は不確定である。

大学および大学相当の教育機関でカタルーニャ語を学んだ人口については、当時これらで設置されていたカタルーニャ語コースについての情報がなく、おおまかな推定すら難しい。なお、就学人口は表 3 のとおりである。

	1981-1982	1982-1983	1983-1984	1984-1985	1985-1986
高等専門学校（Escoles Universitàries）	18,209	18,955	20,120	20,490	33,355
大学学部および高等技術学校（Facultats i Escoles Tècniques Superiors）	77,373	80,884	86,080	87,604	95,034
合計	95,582	99,839	106,200	108,094	128,389

表 3：大学以上の教育機関における在籍者数（1981 年～1986 年）

［出所：資料[6]に基づき独自作成］

当時の大学および大学相当の教育機関でのカタルーニャ語コースについての情報がないこと、また、これら教育機関で学ぶ年齢層は成人対象コースを受講できること、の 2 点に鑑み、大学および大学相当の教育機関でカタルーニャ語を学んだ人口については推定には組み入れないこととする。

4.3 ③成人対象コースでカタルーニャ語を学んだ者

1960 年代から 1970 年代にかけては、カタルーニャ地域の経済発展に伴い、仕事を求めてスペイン南部農村地域からカタルーニャへ移動する人口が増加し、結果として人口中に占める非カタルーニャ語話者（カスティーリャ語話者）の割合が大幅に上昇した。たとえば、1991 年時点では、40 歳から 60 歳までの人口の 50%以上が、カタルーニャ自治州外の生まれであった（Reixach i Pla et al. 1997:87）。また、1975 年にバルセロナ県を対象に行われた言語調査によれば、当時移民労働者が多く居住していたバルセロナ郊外では、カタルーニャ語を理解する者の割合は住民の 55%程度であった（Direcció General de la Política Lingüística 1991:30）。

こうした状況を受けて、1970 年代おわりから市町村による成人対象カタルーニャ語コースが組織されていたが、それらが協定を通じて平準化される形で、カタルーニャ自治政府が運営するコースとなった。表 4 は、1981 年度から 1985 年度までのコース登録者数とコースの種類をまと

めたものである。

年度	登録者数	コースの種別と数
1981-1982	17,000	非カタルーニャ語話者対象 393 / カタルーニャ語話者対象 481
1982-1983	28,120	非カタルーニャ語話者対象 517 / カタルーニャ語話者対象 682
1983-1984	32,500	非カタルーニャ語話者対象 791 / カタルーニャ語話者対象 901
	893	（夏期）非カタルーニャ語話者対象 24 / カタルーニャ語話者対象 23
1984-1985	39,420	非カタルーニャ語話者対象 917 / カタルーニャ語話者対象 1,054
1985-1986	44,493	非カタルーニャ語話者対象 1,039 / カタルーニャ語話者対象 1,123
合計	162,426	非カタルーニャ語話者対象 3,681 / カタルーニャ語話者対象 4,264

表 4：成人対象カタルーニャ語コース登録者の推移（1981 年度-1985 年度）

［出所：資料[1]-[5]に基づき独自作成］

コースの種別から推定すると、5 年間におよそ 75,000 人の非カタルーニャ語話が成人対象コースでカタルーニャ語を学んだことになる。無論、これは延べ数であり、重複数は不確定である。

加えて、1984 年には、成人非カタルーニャ語話者を対象とするカタルーニャ語学習教材 *Digui, digui...Curs de català per a no-catalanoparlants adults*（以下、*Digui, digui...*とする）を用いたカタルーニャ語教室がバルセロナ市を中心に開設され、教室数は 127、受講者総数は 6,000 人に及んだ（資料[3] p.292）。

なお、*Digui, digui...*について補足すると、これは 1984 年にカタルーニャ自治政府言語政策総局によって出版されたマルチメディア教材であり、基盤テキストと連携するビデオやカセット、問題集を備え、コースで利用することも、自習に用いることもできる構成となっていた。内容は、日常生活でのコミュニケーション実践に焦点をあわせており、当時としては新しいものであった（Gimeno Vidal 2012:4）。また、マルチメディア教材としての性質を活かして、テレビやラジオの講座も放送された。

4.4 ④自学自習でカタルーニャ語を学んだ者

自学自習でカタルーニャ語を学んだ者の数は、①から⑤の中で最も推定が難しい。唯一手がかりとなるのは、前節でも言及した *Digui, digui...*に関するアンケート調査の結果である。これによれば、1984 年から 1985 年にかけて *Digui, digui...*を用いた自習者は、194,000 人とのことである（資料[3]:232）。

*Digui, digui...*を使っていてもアンケートに回答しなかった者や、他の教材を用いて自学自習を行った者の数は不確定である。

4.5 ⑤カタルーニャ自治州へ転入してきた、カタルーニャ語を理解する者

1981 年から 1985 年の間にカタルーニャ自治州へ転入した人口は、96,860 人であった。このうち、カタルーニャ語圏とされる 4 つの県（Provincia）からの転入者は 7,812 人（表 5）である。7,812 人のうちに含まれた実際のカタルーニャ語話者の数は不明だが、全体推定に適切な規模を与えるため、ここではすべてをカタルーニャ語話者とみなすことにする。これら 4 県以外からの転入者にカタルーニャ語話者が含まれる可能性もあるが、数字は不確定である。

	Alicante	Baleares	Castellón	Valencia
1981	120	149	139	395
1982	262	303	297	672
1983	280	380	245	667
1984	250	519	354	639
1985	333	683	359	766
合計	1,245	2,034	1,394	3,139
総計				7,812

表 5：他のカタルーニャ語圏からカタルーニャ自治州への転入人口（1981 年-1985 年）

［出所：資料[7]に基づき独自作成］

4.5 推定のまとめ

以上をまとめると、次のようになる。

①あらたに生まれてカタルーニャ語話者となった者	-37,502 人
②学校教育制度内でカタルーニャ語を学んだ者	159,052 人
③成人対象コースでカタルーニャ語を学んだ者	81,000 人
成人対象コース　75,000 人	
*Digui, digui...*教室　6,000 人	
④自学自習でカタルーニャ語を学んだ者	194,000 人
⑤カタルーニャ自治州へ転入してきた、カタルーニャ語を理解する者	7,812 人
合計	404,362 人

表 6：推定結果のまとめ

①から⑤までのパターンを合計すると 404,362 人となるが、カタルーニャ語理解人口の増加数 633,854 人とは 23 万人ほどの開きがある。すでに見たように、①から⑤の各推定数は不確定な数も含めたものであり、実際にはより小さい数となることが考えられる。その上、①から⑤の間の重複も十分にあり得る。以上を考慮するなら、差はさらに広がると考えられる。

5 考察

もとより、この推定は正確さを求めるものではなく、大まかな傾向をつかみ出すことを目的としたものであるため、新しいデータを探索し、①から⑤の細部をさらに検討することも不可能で

はない。しかし、仮にそうしても、およそ 23 万の差を埋めることは難しいと思われる。そこで以下では、カタルーニャ社会における言語のあり方に大きな影響を与えた、1980 年代前半の言語政策の内容を振り返ることを通じて、①～⑤以外の可能性を検討する。

5.1 1980 年代前半のカタルーニャ自治州の言語政策

1981 年から 1983 年にかけては「言語正常化キャンペーン（la Campanya per la Normalització Lingüística）」が実施された。その目的は次のようなものであった（資料[1]:322）。

I. カタルーニャ住民を対象とする言語的意識化（la conscienciació lingüística del poble de Catalunya）
II. カタルーニャ語の公共的プレゼンスと社会的プレスティージの上昇促進（el foment de l'augment de la presència pública del català i del seu prestigi social）
III. バイリンガル会話の推進（la promoció de la conversa bilingüe）
IV. 非カタルーニャ語話者によるカタルーニャ語使用の受容（l'acceptació per part dels no-catalanoparlants de l'ús del català）
V. カタルーニャ語使用の回復プロセスへのカタルーニャ全ての住民と組織の十全な参加（la plena participació de tota la població, les entitats i les institucions de Catalunya en el procés de recuperació de l'ús de la llengua catalana）

具体的には、“La Norma”という名前の 10 歳の少女のマスコットと、「みんなのカタルーニャ語（“El català, cosa de tots”）」というスローガンを中心的に用いた大規模な広報宣伝活動が行われた（表 7）。

内容	数量
スローガンシール	3,000,000 枚
三つ折りパンフレット	1,000,000 部
小冊子	93,000 部
三角立体 POP	485,000 個
ポスター	387,000 枚

表 7：言語正常化キャンペーン広報活動の数量まとめ

［出所：資料[1]に基づき独自作成］

また、言語正常化キャンペーンに賛同する市町村も増加し、その数は人口比で 98%に達した（資料[2]:243）。加えて、言語正常化推進に関する市町村と自治政府の協定も増加し、1983 年末には締結数が 70 となった（資料[2]:245）。この結果、住民にとって身近な行政機関を通じて、関連情報が流通する状態となりつつあった。

言語正常化法が制定された 1983 年には、11 月から 12 月にかけて、複数の新聞や雑誌にこの

法律の抜粋が掲載され、ほとんどすべてのラジオ局で、この言語法で言及されている言語権に関する広報が行われた。また 30 ほどの映画館では言語正常化に関する広報フィルムが本編上映前に流された（資料[2]:249）。1985 年には、「あなた次第（“Depèn de vostè”）」をスローガンとする、カタルーニャ語使用を呼びかけるキャンペーンが新聞・雑誌・テレビ・ラジオで展開された（資料[3]:217）。1984 年には、自治政府公社によるカタルーニャ語テレビ放送（TV3）が本格的に始まり、1986 年には全視聴時間の 39.3%を占めるに到っている（Leprêtre 1992:38）。

5.2 ①～⑤以外の可能性の検討

1980 年代前半の言語政策の重点は、言語知識の普及とカタルーニャ語の社会的プレゼンスの増大にあったと言える。前者についてはすでに見たように、学校教育におけるカタルーニャ語の導入と、成人対象カタルーニャ語コースの拡充という形をとった。後者については、種々のキャンペーンを通じて公共空間でのカタルーニャ語使用が呼びかけられたが、キャンペーンがカタルーニャ語で行われたこと自体が、カタルーニャ語の社会的プレゼンスの増大に寄与したと考えられる。

このように社会全体でカタルーニャ語の存在感が大きくなった結果、言語的な近さもあいまって、カタルーニャ語を理解すると回答する非カタルーニャ語話者（カスティーリャ語話者）が増えたのではないか。つまり、テキストや教材を用いたフォーマルな学習経験によらず、日常生活におけるカタルーニャ語との接触を通じて、程度の差はあれ、カタルーニャ語がわかるという実感を得る者が増えたのではないだろうか。この層を、①～⑤とともに 633,854 人の一部を構成する、あたらしい可能性として考慮する余地はあると思われる。

6 結論にかえて

633,854 人という増加数の内訳を推定し、1980 年代前半の言語政策の内容を振り返った結果、日常生活におけるカタルーニャ語との接触経験に基づき「カタルーニャ語を理解する」と回答した層が一定数いるのではないかという仮説にたどり着いた。本稿では仮説の検証はできず、これを提示するにとどまるが、言語政策によってカタルーニャ語の社会的プレゼンスが飛躍的に大きくなった時期のデータであること、および言語能力に関する全数調査が自己申告により行われていることとは整合性がある。また、言語能力と言語使用を峻別するという社会言語学的観点からも、一定の説得力をもつ仮説と捉えることができる。

以上を踏まえて、この数字の社会言語学的意味をまとめるなら、言語能力に関する話者の自己認識は社会状況の影響を受ける、という至極当然の事実をあらためて確認することが、言語センサスデータの解釈を豊かにする可能性がある、ということになろう。

註

1）ただし、4.3 で言及するように、1975 年にはバルセロナ県で、住民登録更新にあわせて言語能力と家庭内言語に関する調査が行われている。

2）1981 年のデータは、カタルーニャ統計院（Institut d'Estadística de Catalunya, IDESCAT）に直接請求して入手した。1986 年から 2001 年までのデータは IDESCAT のウェブサイト（https://www.idescat.cat/）で公開されている。図 1 および表 2 についても同様である。

参考資料

[1] Memòria del Departament de Cultura de la Generalitat de Catalunya (maig 1980 – desembre 1982)

[2] Memòria del Departament de Cultura de la Generalitat de Catalunya (gener – desembre 1983)

[3] Memòria del Departament de Cultura de la Generalitat de Catalunya (1984 –1985)

[4] Memòria del Departament de Cultura de la Generalitat de Catalunya (1986)

[5] Memòria del Departament de Cultura de la Generalitat de Catalunya (1987)

[6] Anuari Estadístic de Catalunya 1986

[7] Anuario Estadístico de España 1981-1986 各年版

参考文献

Direcció General de la Política Lingüística (1991) *El coneixement de la llengua catalana (1975-1986)*. Barcelona : Generalitat de Catalunya. Departament de Cultura.

Gimeno Vidal, Montserrat (2012) «La Direcció General de Política Lingüística i l'ensenyament de català per a adults. La perspectiva històrica, 1. L'enfocament comunicatiu i els processos d'innovació». *Llengua i ús : Revista tècnica de política lingüística*, [en línia], Núm. 51, 3-13. [https://raco.cat/index.php/LlenguaUs/article/view/257222]（最終閲覧 2021 年 9 月 27 日）

Leprêtre, Marc (1992) *La llengua catalana en l'actualitat* (2a ed. rev. i ampliada). Barcelona : Generalitat de Catalunya. Departament de Cultura.

Reixach i Pla, Modest (coord.).et al.(1997) *El coneixement del català : anàlisi de les dades del cens lingüístic de 1991 de Catalunya, les Illes Balears i el País Valencià*. Barcelona : Generalitat de Catalunya. Departament de Cultura.

塚原信行（2004）「社会言語学における理論と実践-カタルーニャの言語政策形成における社会言語学者の関与を例に-」『多言語社会研究会年報』第 2 号, 136-145.